

4 人材育成活動

□生涯学習分野

環境シンポジウム 「再生可能エネルギーの新たな発展に向けて」

平成 25 年 12 月 1 日(日)13 時より、滋賀大学「環境学習支援士」会との共催で、環境シンポジウム「再生可能エネルギーの新たな発展に向けて」が、大津市ふれあいプラザホール(浜大津明日都)で行われた。このシンポジウムは今回で 5 回目であり、当日は、115 名の方が参加し、大変盛況であった。

プログラムは以下のとおりである。

- 開会の挨拶 橋田 卓也(滋賀大学「環境学習支援士」会理事長)
神部 純一(滋賀大学社会連携研究センター教授)

- 第1部 講演
 - 基調報告 再生可能エネルギーの飛躍的普及のために
和田 武(前日本環境学会会長)
 - 話題提供 滋賀県における再生可能エネルギーの振興について
嘉田 由紀子(滋賀県知事)
 - 話題提供 再生可能エネルギーへの地域の挑戦
浅岡 美恵(NPO気候ネットワーク代表)

- 第2部 パネルディスカッション
 - 「再生可能エネルギーの飛躍的普及の条件として、ステークホルダーの役割について」
 - コーディネーター 田中勝也(滋賀大学環境総合研究センター准教授)
 - パネリスト 和田 武・嘉田 由紀子・浅岡 美恵

- 閉会の挨拶 佐瀬 章男(滋賀大学「環境学習支援士」会副理事長)

和田先生は、買い取り制度の導入のこれまでの経緯、市民地域型の再生エネルギーの取り組みとして、デンマーク、ドイツでの数々の事例を取り上げた。こうした再生可能エネルギーを飛躍的に普及させる事は日本でも十分可能であり、そのための政策の重要性、それから市民・地域のローカルな取り組みの重要性について話された。

嘉田知事は、滋賀県における再生可能エネルギーの取り組みについて、数多くの事例を、スライドで紹介された。また、特に滋賀県には「人」の力、「自然」の力、「知」と「地」の力があり、そうした力を活かして再生可能エネルギー振興を進め、環境に配慮し、産業振興につながり、災害に強い社会を築く、という話しをされた。

浅岡先生からは、被害、影響を考えれば、原発も化石燃料もエネルギー源としては選べない。今大事なのは、原発に頼らずどうしてエネルギー政策を築くのかということ。そして、再生エネルギーを普及させるための事業体をどう

やって経営していくべきなのかについて話された。

パネルディスカッションでは、ステークホルダーという言葉の一つのキーワードとして進められた。ステークホルダーというのは、日本語に訳すと利害関係者の事である。まず前半は、ステークホルダーが再生可能エネルギーの普及にどのように影響するのかというところから、3人のパネリストから話しをしていただき、後半は会場からの質問に答えるという形式で進められた。

○参加者の評価

参加者の90.8%が、「満足した」「やや満足した」と回答しており、全体的な満足度は高かったようである。シンポジウムについて満足した理由としては、多くの人が再生可能エネルギーについての国内外、滋賀県についての情報が入手出来たことにあるとしていた。一方、自由記述をみると「時間的な制約、配分について」や「次世代を含めて今後の展開について議論が不十分」等、満足できていない記述もみられた。こうした意見は今後のシンポジウムの企画に生かしていきたい。

(文責 教授 神部 純一)



【和田先生】



【嘉田知事】



【シンポジウムの様子】